

ずいそう

## TAIPEI 101 Run up —台北国際金融センター駆登競争参加記！



青垣英夫

台北国際金融センター（TAIPEI 101）は現在完成建物では世界一高い建物である。高さ 508 m, 101 階建は台北市内の随所より見ることが出来る。

101 の目玉は世界一早い ELV（東芝 ELV. 製）に乗り、5 階から 89 階の展望階（高さ 382 m）までわずか 37 秒で到着。そのスピードには皆驚く！ その速さは毎分 1,010 m, 時速だと 60 km になる。そしてフロアのセンターに世界最大級の金色に塗装された TMD（Tuned Mass Damper）が鎮座しているのを見学出来る。この TMD は鉄の塊で直径 5.5 m, 重さ 650 ton あり、通常動かないが台風など強風が吹くと建物揺れる反対方向に動いて建物の揺れを制御する、世界最大の制振装置である。

2005 年 11 月 20 日「TAIPEI 101 Run up」が開催された。これは 1 階から 91 階まで高さ 390 m, 階段段数にして 2,046 段を一気に駆け上がる競技である。有名なアメリカの Empire State Building Run up Race は 28 年もの歴史があり、86 階まで高さ 320 m, 1,576 段あり最速で 9 分 33 秒で上がっている。

英語で Run up とか Go Vertical, Climb, Vertical Marathon と呼ばれているが、一番多数派は Run up, 台湾では「登高賽」と呼んでいるが日本だと「駆登競争」になるか？

101 の Run up レースは速さを争う 101 人が参加出来るエリートコースととにかく登りきればよい 1,001 人参加する一般コースがある。エリートコースは賞金総額 101 万元（約 350 万円）で 1 位は 20 万元（70 万円）、世界からプロが集まり、台湾も消防隊員などこの道に強い者が組織の面子をかけて参加した。一般（自我挑戦組）は満 15 歳以上で健康な者ならだれでも早いもの勝ちで参加出来る。

101 建設工事の責任者として、また日本人、会社を代表し他 2 名の社員と自我挑戦組に参加した。当時 55 歳、年齢的には高い方だ。

参加受付は 1 カ月前の 10 月中旬だったがちょうど同じ時期人間ドックに入った。身長 165 cm に体重 69 kg はちょっと重い。5 kg は痩せないときつい。1 リットル入りのペットボトルを 5 本腹に縛っているのと同じではとても上がりきれないと感じ、まず減量を決心。

酒は医者からビールは止めるように言われワインに変更。ご飯もなるべく減らすように家では食べない。昼食もご飯物は少しでも残すように努め、カレンダーに目標の体重を書き入れ毎日記録していった。運動量も大切なので万歩計を購入し、一日とにかく 1 万歩以上歩く。家から現場まで往復すると約 6,000 歩、この時期工事も終わり、現場内を歩くことも少ないので歩数が足りない場合大廻りして家に帰った。週 1 回は早く帰り近くの「大安森林公園」に行き、早足で少なくとも 2 周 30 分は歩き汗をかいた。週末は近くの丘に登り、足腰を鍛えた。そのかいあって 11 月 20 日前日にはほぼ 64 kg まで体重を落とすことが出来た。

いよいよ当日朝食をとり、荷物留守番係りの家内と一緒に 101 に行き、受付。ゼッケン番号 252 番。この順番でスタートする。厳重な身体検査があり、体温、血圧、脈拍の検査にパスしないと駄目。8 時からエリート組スタート。30 秒間隔で出発。1 階にテレビや大型スクリーンが設置してあり、91 階までの中間 2 個所でテレビ中継をやっている。エリート組みは早い！電子計測なので直ぐにデータが掲示される。一番早い記録は 10 分 29 秒のオーストラリア人。

当初の計画は 45 分で登る計画であったが自我挑戦組は 10 秒間隔で出る為、どうしても早めに歩いてしまう。右回りでぐるぐる手すりを使って上がっていく。密閉された階段室であるが、各階にスタッフがいて「加油、加油」つまり「頑張れ、頑張れ」と声援をかけてくれる。テレビ中継個所では皆シャキッと上っていく。何人にも抜かれたが、上階に行くに従い、少し抜き返した。最後 10 階は辛い。頭の中では階段の段数ばかり数えている。90 階になった。もう少しと思いつい計測場所に走りこむ。ゴールイン。タイムは 29 分 58 秒 43 で 30 分を切った。完歩すれば証明書と記念バッジが貰える。これらは一生の宝物だ。完走出来たのは減量に協力してご飯を食べさせてくれなかった妻のお陰。出来れば 5 年後、10 年後の記念大会に出場したいと願っている。

—あおがき ひでお 株式会社熊谷組建築事業本部営業統括部  
技術推進部長—